

# 風車

紀州の歴史と文化の風

文化財センター季刊情報誌【かざぐるま】

2016 夏号 **75**

公益財団法人 和歌山県文化財センター



特集  
**安楽寺多宝小塔の保存修理**



左、安楽寺多宝小塔全景  
右上より順に、屋根瓦棒、二重軒廻り、  
二重組物、二重腰組、一重軒廻り

# 特集 安楽寺多宝小塔の保存修理

## はじめに

全国的にも珍しい「多宝小塔」である重要文化財（建造物）安楽寺多宝小塔は、平成二十七年十一月から工事期間十二ヶ月の予定で保存修理が実施されています。今号では、この珍しい小塔の特徴と、修理工事を通して判明した事柄についてご紹介いたします。

安楽寺は有田町の二川地区に位置します。高野山を源流とし、紀伊水道に注ぐ有田川の中流域、左岸丘陵の中腹に寺地を構えます。多宝小塔はお寺から一段下がった場所に建つ収蔵庫内に安置されています。今回は老朽化した収蔵庫の建て替えに合わせて、多宝小塔の修理が計画されました。全体的に大きな破損はみられないものの、二重の組物を中心に部材の欠失や破損、歪みなどが目立つ状態でした。今回の修理では、健全な部分には極力手を加えず、不具合のある箇所を部分的に分解して補修を行う方針としました。というのも、伝統的

な建物全てに言えることですが、特にこのような小さな建物ですと、分解によって部材にダメージを与えると再用法が困難になり、文化財にとって重要となるオリジナルの部材を残せなくなるためです。

## 多宝小塔の概要

この多宝小塔について、いつ、誰が、どのような理由で建てたのか、実は詳しいことはあまり判っていません。

さらに、小塔は一般の建築物と異なり移設が比較的容易にできるため、最初から現在の場所にあったという確証がありません。今回の修理で棟札や墨書などの発見が期待されましたが、見つかりませんでした。

ただ、柱に隅延びがあり、面取りが大きいこと、そして細部の意匠などが

## 多宝塔とは

一重の平面を四角、二重の平面を円形とし、両重に四角の屋根をかける、特徴的な形状の二重塔です。主に真言宗系の寺院で建設され、その教義では建物そのものが大日如来を体現するとされています。全国で41基が国の指定文化財となっています。



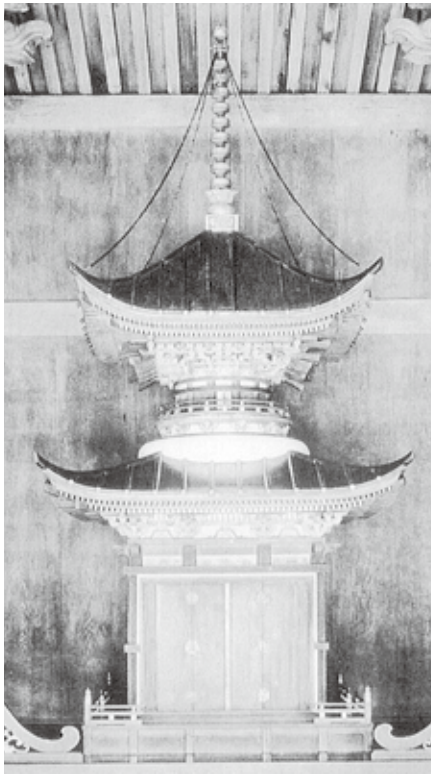
金剛三昧院多宝塔

ら、室町時代前期の建立と考えられています。また、建物の部材表面をよく見ると、風食といつて、長年月外気に晒されることにより雨風が部材を摩滅させた痕跡があることがわかります。このことから、建てられた当時は今と異なり、開放性の高い小堂のような場所に置かれていたと推測できます。そして、他の多宝小塔でみられるような、仏像を内部に安置する機能を優先して、一重正面中央間の間口を極端に広げたり、一重の階高を高くしたりしておらず、あくまで一般の多宝塔のプロポーシオンを基準に造られていることから、厨子としてではなく、建築物として計画した意図が垣間見えます。実際に、全高二メートル程度の大さきですが、それぞれの部材を見ると一般

## 小塔建築

国宝の元興寺極楽坊や海龍王寺（共に奈良県）の五重小塔をはじめとして、全国には多数の小塔建築が伝わっています。

一般の塔と小塔の区別は、屋内に安置されていることが目安となります。



遠照寺多宝小塔  
一重中央間が一間となり、階高も高い

## 多宝小塔の特徴

の多宝塔と変わらない手法で造られていることが判ります。ちなみに、多宝小塔が「単独」の「建造物」として重要文化財に指定されているのは、安楽寺多宝小塔が全国で唯一となります。

具体的に建物の特徴を見ていきましょう。大きさは一般の多宝塔の五〜十分の程度となっております。屋根は瓦葺きのように見えますが、本物の瓦ではなく、木製の屋根板に丸い棒を等間隔に並べる、瓦棒という形式となっております。ここでは瓦棒に竹が用いられている点が珍しいと言われています（表紙写真右側上）。

二重の組物を見ると、一般の多宝塔とは

とんだ違いがないほど精巧に造られています。ただ、普通に部材を造ると一つ一つが小さくなり過ぎて強度が保てないため、一つの材料から複数の部材を造り出す手法が多用されています。これは一般の建物でも強度を保たせたい部分に使われる手法です。組物の内部を見てみましょう。外側に飛び出ている組物（肘木）は、建物の内部を貫通して反対側の肘木と一体になっていることが判ります。また、よく見ると外側に出る部分を少し曲げて造っていることに気が付きます。大きな材料から削ってこのような部材を造っていますが、一般の多宝塔と全く同じ技法です。

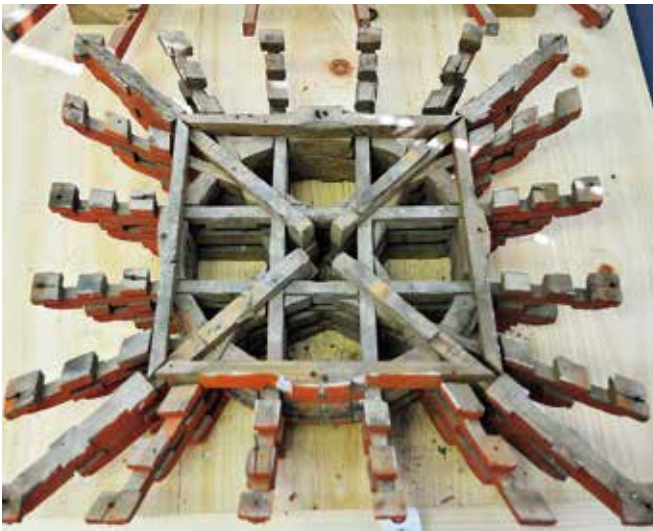
多宝塔の二重は円形の平面と四角の屋根根が取り合うため、対角線<sup>のき</sup>で軒の出が非常に大きくなります。また、円形だと部材の寸



二重軒廻り よく見ると様々な部材が破損している。



[参考] 金剛三昧院多宝塔の二重軒廻り



二重組物の詳細

法や位置の基準を決めるのが難しくなりま  
す。このように、多宝塔は非常に高い大工  
技術を要求する建物ですが、この小塔も部  
材の納まりが破綻しないように造るには、  
同じくらい高度な技術が必要と考えられま  
す。つまり、この多宝小塔は高度な技術を  
持った大工が製作に関わったと推測される  
のです。

## 建立当初の姿

今回の保存修理に伴う調査の結果、多宝  
小塔は建立後から現在までに大きな修理が  
行われ、建物の姿が大きく変わっていた

ことが明らかになりました。その際、一重の  
外壁部分が特に大きく  
変わりました。現状は  
正面の中央のみに扉構  
えがあり、その他は全  
て板壁になっています。  
これが、建立当初は正  
面と同様の扉構えが他  
の三面にもあり、また  
両脇部分にも連子窓と  
呼ばれる窓状の意匠が  
あったことが判明しま  
した。

さらに、元々の建物の正面は、現在の左  
側面であったことも判りました。扉を撤去  
する際に、現在の正面部分のみを存置し、  
正面としたようです。地盤と直接接点がな  
く向きを容易に変えられる小塔建築ならで  
はの改変と言えます。

判明した建築当初の姿は、正に多くの多  
宝塔と共通する意匠といえます。このこと  
からも、「多宝塔」を強く意識して計画さ  
れたことが判ります。そしてその当時の姿  
こそ、この小塔にとって最も価値があると  
判断できるため、所有者や文化庁、県や町  
などの関係者と協議を行い、今回の工事で  
判明した姿に復するよう計画しています。

## 隅延び

古代から中世初期の建物の特徴に「隅延び」という技法があります。

建物の隅柱を他の柱より少し長く造ることから、こう呼ばれます。柱の長さが異なると、その影響は様々な場所に現れますが、特に頭貫に注目するとよくわかります。軒の反りを綺麗に見せるために考え出された技術ですが、室町時代中期頃には使われなくなるとされています。



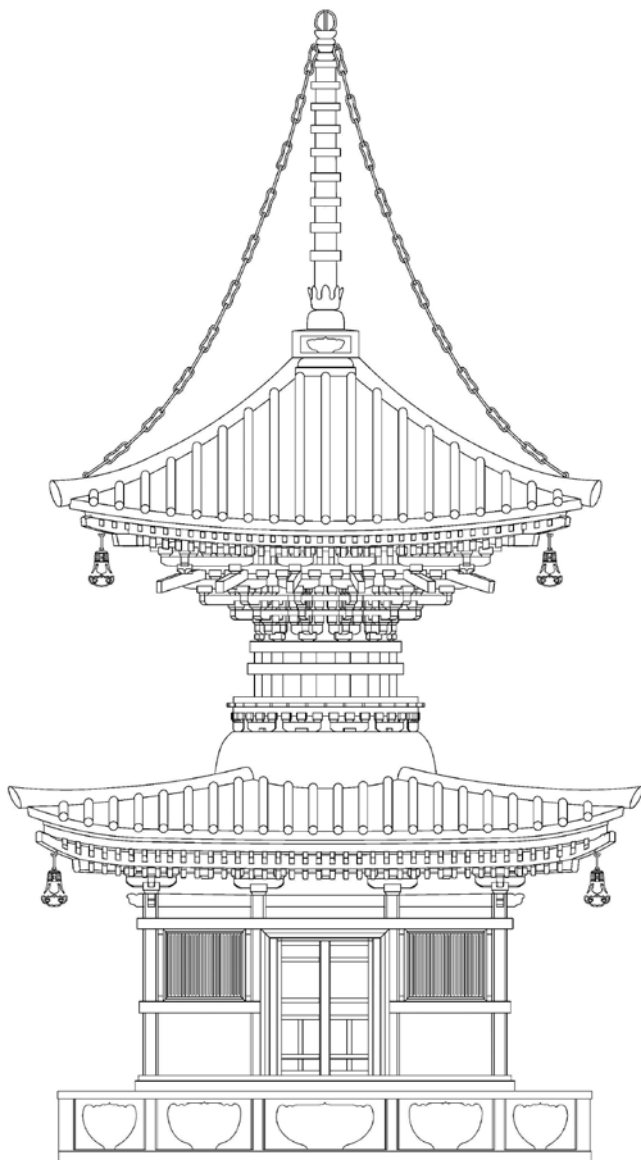
頭貫の上端が斜めになり隅柱が長いことがわかる

## やういふに

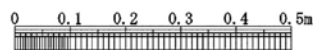
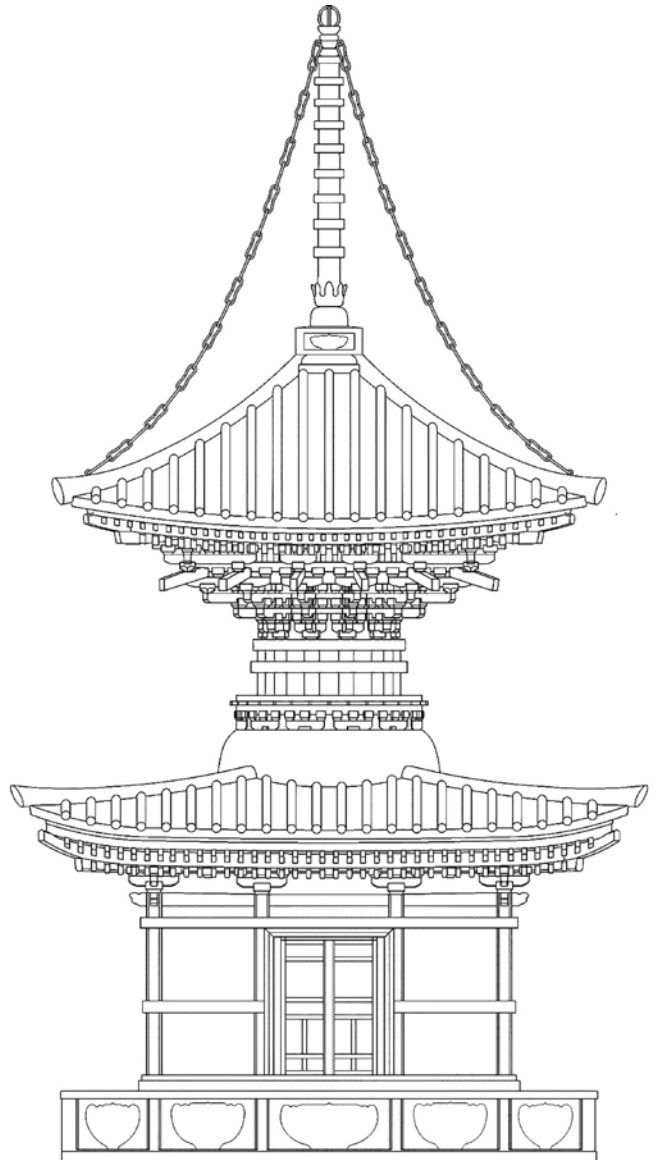
今回の解体修理によって、建物の建立に  
関する資料がみつかることが期待されまし  
たが、叶いませんでした。その代わり、建  
立当初の姿が今と大きく異なることが判明  
しました。建物の解体修理とそれに伴う調  
査は、その建物がたどってきた歴史を遡る  
旅とも言えるでしょう。

二川地区は古く阿弓河庄と呼ばれ、高野  
山領の最西端にあたります。このような素  
晴らしく貴重な多宝小塔が伝わったことは、  
高野山との関係を想起させる点でも非常に  
興味深いと言えます。

(結城 啓司)



復原正面図



現状正面図

**案内**  
**「重要文化財安楽寺多宝小塔修理完成記念」**  
 として、平成二十九年一月二十一日（三月五日）まで和歌山県立博物館にて、修理を終えた多宝小塔が公開される予定です。  
 ※詳細は博物館にお問い合わせ下さい。

### 全国の多宝小塔

下表の通り、現在 10 基の多宝小塔が確認出来ます。

	名称	所在地	建立年代	指定
1	安楽寺多宝小塔	和歌山県	室町前期	重文(建造物)
2	興禅寺多宝小塔	京都府	室町前期	市指定
3	三溪園多宝塔	神奈川県	宝徳2年(1450)	重文(工芸)
4	遠照寺多宝小塔	長野県	天文7年(1538)	重文(建造物)附
5	巖島神社多宝小塔	山口県	室町中～後期頃	市指定
6	十輪院多宝小塔	奈良県		
7	正覚寺多宝小塔	和歌山県	江戸中期	県指定
8	東大寺戒壇院多宝塔	奈良県	享保17年(1732)	
9	智積院多宝塔	京都府	江戸後期か	
10	旧石清水八幡宮多宝小塔	滋賀県	江戸時代	



## 新宮城跡、新宮城下町遺跡 第一次発掘調査

発掘調査は新宮市文化複合施設建設に伴うもので、新宮市の委託を受けて今年二月から六月にかけて第一次調査を実施しました。調査箇所は国指定史跡になっている新宮城跡の西側で、旧丹鶴小学校敷地内になります。

調査区付近は熊野川が形成した自然堤防上で、安定した微高地であったことから縄文時代以降江戸時代にかけての遺構が残されており、発掘調査では第一遺構面で江戸時代の新宮城下町の遺構、第二遺構面で古墳時代初頭から室町時代の遺構、第三遺構面で縄文時代の遺構を検出するなど数多くの成果を上げることができました。今回は、第一遺構面の成果について紹介します。

城下町の遺構には、南北に延びる道路とその東西両側に石垣で区画された武家屋敷があります。道路は江戸時代に「河原

町通り」と呼ばれていたもので、道路面は掘割状に屋敷地より一段低く構築されています。対応する石垣の特徴から、道路の構築が江戸時代初期まで遡ると考えられます。構築当初は西側のみ石組みの側溝を設置し、道路幅は五・二mを測り、路面には一〜五cm程度の円礫を敷いて敲き締めていました。

屋敷地を区画した石垣は、江戸時代初期の浅野期に描かれた『紀州新宮絵図』と対応する位置関係で検出されています。石垣の積み方は、その位置ごとで異なっており、道路に面する石垣や西屋敷地北

側を区画する石垣に大きな石材が用いられています。特に、西屋敷地北側の石垣は、残存高が一・三m程度を測り、その積み方から構築時期が江戸時代初期に遡ることが指摘されています。屋敷地内の建物等は明確ではありませんが、道路や石垣・側溝については、近世の城下町における都市構造を現在に遺存する極めて重要な遺構と評価することができます。

(川崎雅史)



第1次遺構面全景（右が北方向）



西屋敷地北側の石垣

## 文化財建造物修理技術者の道具 ④ 暗がりを探る

新年度から旧西村家住宅という建物の修理現場に来ています。洋風の住宅ですので、柱や梁などの構造が壁の中に隠れていて見えません。壁や床の板を取り外した場所から内部を覗きこんだりして、建物がどのように成り立っているのか、いろいろな手がかりを探しています。

そういった場合は暗いので、懐中電灯を使用しますが、実測の為にコンベックス等の計測道具も手にしたいので、私は頭に取り付けるタイプのものを重宝しています。灯りをつけると、視界良好で作業を、とてもスムーズに進めることができます。

ただ、「調子よく出来上がった野帳を確認してもらおうと「あれが描けてないじゃないか」と指摘されることもあり、照らしただけで重要なものが自然に見えてくるとは限らないということを日々、思い知らされています。

修理現場では、建物が過去にどのような状態であったのかを客観的に見極めなければいけません。

こちらでの修理を終えた時、皆さんに沢山の発見を伝えられるように、そして建物にとって良い修理とは何なのか考えながら記録をして行こうと思っています。

暗い場所を測るときにも、その材料の歴史を見逃さないように、電灯で照らした先をじっくり観察して、隅々まで建物を理解したいという意気込みです。



地下室から床下を見る（旧西村家住宅）

## きのくに歴史小話

～きのくにれきしこぼなし～

### 新任のご挨拶 ① 埋蔵文化財課

はじめまして、本年四月より文化財センターに採用されました、加藤達夫と申します。新人ですが、今年、厄年（本厄）をむかえましたので新人感はありません（笑）。和歌山にきて三ヶ月がすぎ、生活にもだんだん慣れてきました。和歌山で生活するのは初めてなので見ることも、聞くこと全てが新鮮で刺激的な毎日を送っています。

和歌山初心者なので、勉強の毎日です。仕事で扱う埋蔵文化財についても、これまであまり見たことがないものも多く「所変われば品変わる」を実感しています。それに加えて、県内でも北と南では、遺跡から出てくるものが、想像以上に違うことにも驚きました。さて、わたしはもともと遺跡の発掘や博物館の学芸員の仕事に興味があり、かれこれ10年ほどまえに、発掘調査の仕事にとびこみました。これまでたくさん先輩にご指導いただいたおかげで、今日までこの仕事を続けられました。

まだまだ、不慣れですが、初心に帰りたいと学びながらよりよい調査ができるよう精いっぱい努めていきたいと思っています。



# 催し物案内 和歌山県内の文化財関係イベント情報 (2016年夏～秋)

## (公財) 和歌山県文化財センター

### ● 「地宝のひびき - 和歌山県内文化財調査報告会 -」

場所：きのくに志学館 (和歌山県立図書館) 2F 講義・研修室 2016年 7月16日 (土) 13:00~17:00

## 和歌山県立紀伊風土記の丘

### ● 夏季企画展「学校にあるたからもの」

2016年 7月16日 (土) ~ 9月 4日 (日)

### ● 風土記講座③「夏季企画展展示解説」

2016年 8月20日 (土)

### ● 秋期特別展「岩橋千塚とその時代~紀ノ川流域の古墳文化~」

2016年10月 1日 (土) ~12月 4日 (日)

### ● 特別展記念講演会

2016年10月 9日 (日)

### ● 特別展セミナー①、②、③

2016年10月16日 (日)、23日 (日)、30日 (日)

## 和歌山県立博物館

### ● 夏休み企画展「きのくに人物百科-姿とことば-」

2016年 7月16日 (土) ~ 8月31日 (水)

### ● 特別展「戦乱の世から泰平の世へ-16~17世紀の紀北・泉南地域-」

2016年 9月10日 (土) ~10月10日 (月)

### ● 特別展「ろせつはつらつ 蘆雪潑刺-草堂寺と紀南の至宝-」

2016年10月18日 (火) ~11月23日 (水)

## 和歌山市立博物館

### ● 特別展「玉津島-そとおりひめ 衣通姫と三十六歌仙-」

2016年 7月16日 (水) ~ 8月21日 (日)

### ● 史跡散歩「古写真でぶらり歩こう本町界限」

2016年10月 8日 (土)

## 高野山霊宝館

### ● 第37回高野山大宝蔵展「高野山の名宝」

2016年 7月 9日 (土) ~10月 3日 (月)

### ● 秋期企画展「真田丸」の時代と高野山」

2016年10月 8日 (土) ~2017年 1月15日 (日)

掲載内容は変更される可能性があります。詳細は各施設へお問い合わせください。

### 目次

- 1 表紙「安楽寺多宝小塔」
- 2 特集「安楽寺多宝小塔の保存修理」
- 6 埋蔵文化財課 短信「新宮城跡、新宮城下町遺跡第1次発掘調査」
- 7 きのくに歴史小話「文化財建造物修理技術者の道具④ 暗がりを探る」  
「新任のご挨拶① 埋蔵文化財課」
- 8 催し物案内

風車74号の特集につきまして、旧橋本陣池永家住宅の記述を下記の通り訂正致します。

「主屋は享保十六年(一七三一)以前の建物で、建立年代が判明した和歌山県内の民家としては、最古の建物とされています。」

↓  
「主屋は享保十六年(一七三一)以前と伝わる建物です。」

## 風車75 (2016・夏号)

平成 28年 6月 30日

(公財)和歌山県文化財センター

URL <http://www.wabunse.or.jp>

## (公財)和歌山県文化財センター

【事務局】 〒640-8301 和歌山市岩橋1263-1  
TEL 073-472-3710  
FAX 073-474-2270  
[maizou-1@wabunse.or.jp](mailto:maizou-1@wabunse.or.jp)